九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

日本語の感謝表現に関する研究概観

張, 琦
九州大学大学院地球社会統合科学府

https://doi.org/10.15017/2348685

出版情報：地球社会統合科学研究. 11, pp.57-65, 2019-09-25. 九州大学大学院地球社会統合科学府
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

『地球社会統合科学研究』11号 57～65
Integrated Sciences for Global Society Studies
No.11 , pp. 57～65

日本語の感謝表現に関する研究概観

張（チョウ）　琦（キ）

1．はじめに

本研究で取り扱う「感謝」に関する表現は、さまざまな社会の中で普遍的に用いられ、その言語が話される文化や社会の規範、価値観を大きく反映している。その中でも、日本語の感謝表現はバラエティーに富み、他の言語に比べ、非常に複雑である。「多くの言語対照研究が示すように各言語は異なる文化的価値観や習慣を反映しており、目標言語表現の自然な使い分けは上級者であっても難しいことが多い」（中村p.243）。日本語学習者にとって、個々の状況で適切な感謝表現を用いることは決して容易ではない。しかし、習得困難な項目であるにも関わらず、指導が不十分なところがある。そのため、まずは現代日本語の話しことばにおける感謝に関して、その行為特徴、表現、感謝の使用に影響を与える変数等を概観し、何が解明されてきたのかをまとめる。さらに、日英・日中・日韓、それぞれ二言語間の感謝表現を対照することで、日本語の感謝の特徴をより明確にする。

2．感謝の定義・表現・ストラテジー

2．1　感謝の定義

出典	定義
Searle（1969）	話し手にとって利益となる聞き手の過去の行為に基づいて、話し手が行う発話内行為で、話し手の感情的態度を表す。
Leech（1983）	「感謝」とは話し手が聞き手の行為により利益を受けることでバランスの崩れた両者の関係を、また「詫び」は逆に話し手の行為が聞き手を害したことで崩れた平衡関係をそれぞれ修復しようとする試みである。（中村訳 , 2006, p.243）
熊取谷（1991）	感謝は快適状況が生じたと判断し、これを生起せしめた人物に向けて遂行する発話行為といえよう。（P.61）
岡本（1992）	相手の何らかの行動が、話し手に何らかの利益をもたらした場合に、お返しとして行われる言語的コミュニケーションである。（P.35）

2．2　感謝表現の分類

感謝表現の分類について、佐久間（1983）はドラマの台詞をもとに、日本語の感謝表現を四つに分けた。（一）慣用的な定型表現をそのまま用いる（二）事実関係を叙述する（三）話し手の気持ちを叙述する（四）ことばにならない表現、の四つである。

佐久間のこの分類が先行研究で最も引用されている。この四つの分類は、おおまかに慣用的定型表現と慣用的定型ではない表現、この２種類に分類できる。しかし、慣用的定型表現の定義が説明されておらず、何が慣用的で何が慣用的ではないか、両者の区別が曖昧で判断しにくい。例えば、「（三）話し手の気持ちを叙述する」の例を見てみると、「本日はこのような送別会を開いていただき本当にうれしく、しあわせに思っております」前半の部分は（二）事実関係の叙述となっていて、後半の部分は気持ちの叙述となっている。従って、佐久間の分類は検討する余地がある。

それに対し、三宅（1993b）は慣用表現の定義について、「①構成要素の語彙的な意味からはなれて一つの表現として定着している。②回答に独立して現れうる。③出現率が高い。の三つの条件を満たすものとしている」と補充している。さらに、三宅（1994）は、日本語母語話者を対象に、アンケート調査を実施し、回答から慣用的な表現を考察した。しかし、出現率は慣用度の重要な条件として適切かという疑問がある。

ほかに、中田（1989）は Cohen＆Olshtain（1981）による陳謝表現の意味分類に基づいて、アンケート調査から集めた日本語の感謝表現を以下のように分類している。

1. 感謝行為遂行的：感謝します、お礼を言います、サンキュー
2. 相手の行為の評価：ありがとうございます、ありがたい、ご苦労
3. 相手の評価

4. 相手の行為に対する話し手の気持ち・状態の表明：すみません、悪い、恐れ入ります/恐縮です
5. 受益の事実の表明：お世話になっています/なりました、ご馳走様
6. 返済の意志の表明：恩にきます（pp.197-198）

「すみません」も感謝表現として使えることが分かる。佐久間（1983）、三宅（1994）より、中田の分類方法は日本語の感謝表現をより網羅している。

3．通時的考察

「すみません」が感謝の意として使われるようになった歴史的な流れについて、西村（1981）は狂言、酒落本、小説など様々な題材における感謝と謝罪の言葉を対比しながら、通時的に考察した。「一つの言葉が感謝も謝罪も表現する。中世後期は「慮外」、江戸時代は「はばかり」、明治は「すみません」「恐れ入ります」、大正・昭和は「すみません」がそれぞれ代表的である」（p.79）と述べている。一方、奥山（1981）は感謝の意味の「済みません」が蔓延したのは戦後からだと推測している。

4．話し手の心理状態からの研究

土居（1975）は甘えの心理から、日本人が「すまない」を頻発する理由を説明した。

親切にしてくれる人への負担を考慮し、非礼だと思われないように詫びの言葉を使う。

佐久間（1983）は「すみません」を「軽い感謝表現」と紹介している。また、感謝と詫びの表現形式の使い分けと話し手の心理状態との関係を明らかにしている。「「喜び」の気持ちの表明に重きが置かれる場合には、「喜び」を基底に持つ「ありがとうございます」の代わりに、「すみません」を使うことができず、「許しを乞う気持ち」を基底にもつ「ごめんなさい」は、感謝の表現として用いることができないのである」（p.63）

水谷修（1988）も話し手の心理状態から「ありがとう」と「すみません」の使い分けを捉えている。「「すみません」が感謝の表現として使われるのは、自分がその好意に値しないと感じた時や、その好意を期待しなかった時である」（p.116）と主張している。「ありがとう」を使うか「すみません」を使うか、相手の好意をどう受け取るかによって選択が異なる。

「一般的に女性は男性より「すみません」を使う可能性が高い。若い人は「ありがとう（ございます）」を,年長の人は「すみません」を多く用いる」（p.116）と述べているが、主観的な判断で、数字的な裏付けが期待される。

三宅（1993）はCoulmas（1981）の“indebtedness”「借り」の概念と関連付けながら、日本語の「感謝」と「詫び」の心理的接点を考察した。また、三宅（1994）は「すみません」をはじめとする詫び表現がいつ、どのような場面で多用されるか、またその背景となる社会的要因を解明するために、日本人122名、イギリス人101名にアンケート調査を実施した。感謝と詫びの言語表現を誘発しそうな36場面を設定し、被験者にそれぞれの場面でどのような言語表現を使うか、またどのような気持ちをもつかを聞いた。慣用表現の使用を見た結果、日本人はイギリス人に比べ、同じ状況でも詫びの気持ちを抱きやすいことが分かった。

西原（1994）は日本人がイギリス人に比べ、同じ状況でも詫びの気持ちを抱きやすい理由をWiersbickaの枠組みを用いて解釈した。

① 話し手にとって良い（プラスである、歓迎すべき、有利な etc.）ことか
② 聞き手にとって悪い（マイナスである、歓迎できない、不利な etc.）ことか
③ 状況は聞き手（あるいはその周辺）に起因するか
④ 状況は話し手（あるいはその周辺）に起因するか（pp.5-６）

「②は常に回避されなければならず、①の条件は本来あってはならないもので、①③が成立したことは直ちに②④と再解釈され、陳謝、すなわち聞き手の負を縮小させる行為へと直結することになるという循環が成立すると考えるわけである」（p.6）

また「感謝」「陳謝」の同時並存を社会的強弱関係から説明している。「話し手が年上である場合は自分の優位を自覚する結果、年下からの奉仕や親切に対して「自分が原因で聞き手にとっては悪いことになった」という感謝・陳謝並存の要因を感じなくてよい」（p.8）と例を挙げているが、西原自身も指摘したように、実証できる資料の裏付けがないことが問題点である。この主張は小川（1995）の実態調査の結果「感謝の「すみません」は上の世代では目下や友達に対して使われる傾向がある」（p.50）と異なる。

5. 語用論的研究

山梨（1986）はSearleの発話行為理論に基づき、日本語の感謝の適切性条件を以下に挙げる。

Thank（x,y,P）：
i. 命題：Pはｙによる過去の行為
ii. 準備：ｘはｙの行為が自分にプラスであると信じている。
iii. 誠実：ｘはｙの行為に恩を感じている
iv. 本質：ｙの行為に対するｘのその気持ちの表出

中田（1989）は映画・テレビドラマから採った用例をもとに、Searleの発話行為の適切条件に照らし合わせながら、日英の陳謝と感謝の使用条件の異同を考察した。Searleの適切条件をもとに、以下のように修正した。

1. 命題内容条件：Pはyによる過去の行為
2. 準備条件：(a)xはyの行為が自分にプラスであると信じている
(b)xはyの行為がyにマイナスであると信じている
3. 誠実条件：(a)xはyの行為に恩を感じている
(b)xはyへのマイナスを遺憾に感じている
4. 本質条件：yの行為に対するxの(a)および(b)の気持ちの表出（p.200）

熊取谷（1991）は自然会話データを用い、感謝のやりとりの構造と「すみません」「ありがとう」の併用現象について考察した。併用現象とは「感謝の対象となる行動に対して「すみません」と「ありがとう」が併用されるこのような現象」（p.63）とのことである。

快適状況が発生した場合、話し手と聞き手の人間関係に不均衡が生じることになり、この不均衡を修復するために、感謝の丁寧行動が行われる。「すみません」と「ありがとう」が併用されても、両者の談話機能における働きは異なる。「すみません」は「不均衡修復のための行為」で、「ありがとう」は「感謝のやりとりの終結標識」であると指摘した。

熊取谷（1994）も同じようにSearle（1969）の発話行為理論の適切性条件に従って、日本語の感謝の適切性条件をまとめた。

命題内容条件：聞き手（あるいは聞き手にとっての「ウチ」関係の人間）による確定した行為を表す。
予備条件：発話者は自分（或いは「ウチ」関係にある人間）にとっての有益状況が生じたと見なしている。
誠実性条件：発話者は該当行為・状況を嬉しく感じている。
本質条件：該当行為・状況に対する誠実性条件に示された心的態度の表明。（p.66）

また、感謝状況で、詫び表現が使用できない場合が２つある

① ある種の態度表明型の発語内行為
② 社会的関係から当然期待されるべき行為、あるいは社会的役割から儀礼的行う感謝　（p.68）

大谷（2003）は感謝場面で、どのような発話行為を選ぶかについて、日・英母語話者における談話完成テストを行った。感謝の適切性条件を満たすものとして、調査データから以下の具体例が挙げられている。

命題内容条件：ごちー（「ご馳走になりました」の意）
準備条件：助かった
誠実条件：i owe you one.
本質条件：うれしー

佐久間（1983）、住田（1990）、小川（1993）、三宅（1994）などの研究では、感謝の慣用表現に焦点が当てられてきた。それに対し、山梨（1986）、熊取谷（1991）、大谷（2003）は、適切性条件の側面から研究を行った。後者はより、日本語の感謝表現を詳しく説明できると考える。

6. 社会言語学的研究

住田（1990）は感謝の「ありがとう」と「すみません」について、「感謝の対象」「表現形式」「待遇表現」の三つの視点から、日本人女子大学生97名に実態調査を行った。その結果を待遇上の機能と相手への煩わせの程度との観点から表にまとめた。

表 1

機能 / 表現	待遇上・煩わせの程度		
	既知	未知	その他
ありがとうございます	目上	一般	公的
すみません ありがとうございます	目上	一般	
すみません	目上	一般	私的
ありがとう ごめんね	家族 対等 目下	子供	
ごめんね	家族 対等 目下	子供	
ありがとう	家族 対等 目下	子供	

調査方法について、「その場面の、ひとまとまりの会話を記録する」と説明しているが、97名もいる被験者の自然談話をどのように収集したのかは説明されていない。

佐久間（1983）は「ごめんなさい」を感謝の表現として使えないと述べているが、住田の実態し調査から分かるように、感謝の気持ちを表出するとき「ごめんなさい」も使用されることがある。

三宅（1993）は感謝場面で詫び表現が使われる理由について、アンケート調査を通じて解明した。結果としては「「すみません」をはじめとする詫び表現が感謝の意味で使われるのは、相手に負担がかかっていると話し手が解釈する場面に限られていることが考えられる」と述べている。また、「詫び表現が選択される決定要素として、（1）目上・目下／親・疎の差、（2）相手の負担の軽重、自分の利益の大小、借りの有無があり、（1）は（2）より優先される」と解明しようとしている。「日本語の詫び表現の選択は、社会的規範や社会的ルールに極めて強く支配された現象である」（pp.28-29）と主張している。

「4.話し手の心理状況からの研究」でみたように、相手の行為をどう受け取るかによって言語表現が異なる。負担の軽重、利益の大小など、話し手によって判断が異なり、その基準は明確ではない。

三宅（1994）は文化・社会的な要素の影響から日英言語行動の違いを分析した。日本人には話し手によって言語表現が細かく使われる。「「ごめんね」、「すみません」などは女性に多く使われる表現である。「わるいね」、「サンキュー」、「どうもすいません」、「もうしわけない」、「どうも」などは男性に多く使われる」（p.17）　それに対し、イギリス人の言語表現には相手による使い分けの変化が比較的少ない。

「異なりの要素は、「借り」の有無や大小に対する考え方、相手との上下・親疎関係、話し手の性などさまざまであり、それらが複雑に作用し合って言語行動の違いとして表出しているのである」（p.18）

山本（2003）は、いくつかの先行研究をまとめた上で、実際の会話で感謝を表す「すみません」がどのような場面で使われるかを調べるために、テレビドラマのシナリオから会話を抽出し、三宅が主張した決定要素の優先順位を検討した。①「すみません」を決定する要素の優先順位は：聞き手が年上かどうか ＜ 相対的力関係 ＜ 親密度　であり、②「相手の負担の軽重、自分の利益の大小、借りの有無」については、実際に物の移動より、話し手の申し訳なく思う気持ちが言語行動を決める。

表2

出典	研究対象	研究内容	研究方法	結果
三宅 (1994)	[日]123名 [英]101名	感謝と詫び	(1)自由記述式アンケート (2)選択式アンケート	日本人とイギリス人は、17の場面における感謝の感じ方が異なるだけではなく、言語表現の使い方も異なる。日本人は相手が【指教】や初めて会った人【未知】である場合、相手の好意に対して詫びを感じる傾向があり、言語表現としては詫び表現を多く用いる。イギリス人はこのような場面でも感謝の気持ちを感じる傾向があり、言語表現としては感謝表現を多く用いる。
崔 (2000)	[日]30名 [中]30名 [韓]27名	感謝を表す表現	(1)自由回答式アンケート調査 (2)多肢選択式アンケート	[日] 中国人、韓国人より感謝する頻度が高い。そして定式表現が多い。 [中・韓] 感謝場面における詫び表現の使用は日本人ほどではない
安 (2005)	[日]88名 [漢]88名 [朝]88名	相手から恩恵を受けた際、相手ごとによって、どのような言語表現を用いるか	アンケート調査	[漢・朝] ①詫びの言語表現の使用は日本人より顕著に低い。②金銭問題において、日本人とかなりのギャップが生じる。 [日・中・韓] 三者ともに相手が「あまり親しくない関係」である場合、詫びの言語表現を多用している。
中村 (2006)	[日]62名 [独]62名	感謝ストラテジー	(1)自由記述式談話完成テストDCT (2)多肢選択式談話完成テストMCT (3)テスト後アンケート	[日] 感謝ストラテジー選択において、相手への負担の軽重は相手との関係ほど大きな影響を及ぼさない。 [独] ドイツ語母語話者は日本語母語話者ほど詫び表現を使用しない。

7．対照言語学的研究

三宅（1994）、崔（2000）、安（2005）、中村（2006）は対照言語学の視点から言語間の異同を考察した。表2に示す。

8．その他の研究

谷口（2010）はテレビドラマのシナリオを用いながら、ヴォイスを中心に、詫び表現と感謝表現の選択と談話構造との関わりについて考察した。尾鼻（2015）はシンボリック相互作用という社会心理学の理論を適用し、自己と他者との間で認知するrole-indentitiesの領域が「ありがとう」と「すみません」の選択基準となると論じた。これは熊取谷（1990）の感謝場面で「ありがとう」が「すみません」に置き換えられる「共感制約」「役割期待制約」の考えと共通している。

9. 実態調査

感謝に関する主要な実態調査を以下に紹介する。

表3

研究者	対象	研究方法･内容	結果
国立国語研究所(1963)	［日］ 男307人 女419人	調査 「道を歩いていて､ハンカチを落としました｡あとから来た人にひろってもらったときには､まずなんと言ってお礼を言いますか」	①アリガトウ型（どうもありがとう、ありがとうございます、ありがとう存じました）：43％ ②スミマセン型（どうもすみません、すみませんでした）：31％ ①＋②：17％
岡本(1992)	［日］ 女子短大生104名	アンケート調査 定型的な感謝表現において､状況と対人関係（親疎）による使い分け。	相手の負担が大きいと感じたられる状況ほど謝罪型が多用され、感謝型が少なくなる傾向が非常にはっきりと示された。対人関係の要因について疎遠な相手に対しては、全般に謝罪型の比率が高まるが、相手のコストを配慮した使い分けが行われていると推測される。
小川(1995)	［日］ 女性221名 男性51名	アンケート調査 人間関係による「すみません」の使用実態	①感謝を表す「すみません」の使用には制約があり、使えない場面がある。 ②感謝とわびの表現の使用実態には、世代差があり、感謝の「すみません」は若い世代では、目上やソトの人に多用される。逆に上の世代では目下や友達（ウチ）に対して使われる傾向がある。 ③感謝の表現の使用には、男女差はほとんどない。 問題点：男女の数がアンバランスで、それでも男女差がないと言えるでしょうか。
赤堀(1995)	［日］ 女性35名 男性25名 男性１名	アンケート調査（自由回答式､選択式)と自然データ バラエティーや場面による感謝ストラテジーの使い分け	熊取谷（1994）の「表現ストラテジー」を参考しながら、アンケート調査の結果に基づき、感謝表現のストラテジーを細分した。 問題点：少人数のアンケートのため、必ず日本語の感謝表現のストラテジーを網羅しているとは限らない。
村上(1999)	［日］ 男性42人 女性30人	アンケート調査 相手による「ありがとう」､「ありがとうございます」､「すみません」の使い分け	基本的な傾向に年齢､性別による差はないという結果が出た。
小野他(2000)	［日］ 男性43名 女性118名	アンケート調査 感謝の場面で上下､ウチ・ソト､親疎による表現の使用状況	①対象が下･ソト、ウチ･親の場合、負担度にかかわらず「ありがとう」系を多用する。 ②上・ソトの対象に対し、20代の被験者が「すみません系」を多く用いる。 ③20～40代では定式表現を重ねる不可表現が比較的多く観察された。
大窪(2001)	［日］ 男性10名 女性34名	アンケート調査 ･見知らぬ人に対する感謝表現と詫び表現使い分け ･感謝/詫び表現を受け取る側の意識	･年下の見知らぬの人に対し､「ありがとう」も使われるが、年上に使えない。年上にもっと丁寧が表現が使われる。 ･ 見知らぬ人に、年齢に関わらず「サンキュー」「わるい」という表現は感じがよくない。また年下の人に対しても丁寧が言語行動を期待している。
ロング(2005)	［日］ 男性19人 女性20人	アンケート調査 ･親疎･上下関係による感謝表現の違い ･発話時での気持ち	･「場面」と「聞き手」との間での相関関係が謝罪表現の使用に影響を与える ･「申し訳なく思う」気持ちが感謝場面での謝罪表現の使用を規定する要因である。
スィリラット(2011)	［日］120人 ［タイ］120人	アンケート調査とインタビュー 感謝場面で謝罪の発話をする社会的要因	①タイ語に比べ、日本語は様々な感謝表現を使用する。 ②タイ語母語話者はもとより、日本語母語話者においても男女差、年齢差はほとんど見られない。 ③日本語の場合、話し手と聞き手の関係がもっとも影響を与える要因となっている。

10. まとめ

1970～80年代は、心理的な面から感謝を表す「すみません」と「ありがとう」の使い分けに関する研究が盛んだった。日本人が相手との円満的な人間関係を保つために、親切な行為をしてくれる相手への負担を考慮し、感謝場面での詫び表現を使用することは、非常に特徴的である。80～90年代に入ると、発話行為理論の視点からの考察も多く行われるようになった。主にSearleの適切性条件に照らし合わせながら、日本語の感謝の適切性条件を検討した。そのあと、社会言語学的な研究が行われた。しかし、そのほとんどは相手による感謝の慣用表現の使い分けに関するものだった。90年代以降、日本語母語話者の実態調査や日本語母語話者と他言語母語話者との対照研究が多くなされた。中国語、韓国語、英語（イギリス）、ドイツ語母語話者に比べると、日本語母語話者は感謝場面における詫び表現の使用が顕著だった。他に少数でありながら、談話構造や社会心理学の面から行われた研究もあった。

今回は「通時的考察」「話し手の心理状況からの研究」「語用論的研究」「社会言語学的研究」「対照言語学的研究」「その他の研究」「実態調査」と、多面的に日本語の感謝表現に関する先行研究を概観した。また、感謝表現の定義、表現、感謝行為の特徴、感謝の使用に影響を与える変数を明らかにした。対照研究から、日本人が感謝場面における詫び表現の使用において、他の言語の母語話者と大いに違うことも分かった。今後は日本語学習者の研究を視野に入れ考察したい。

参考文献

赤堀由紀子（1995）「日本語母語話者の感謝表現：ストラテジーの種類とその使い分けを中心に」『待兼山論叢 . 日本学編』29, pp.49-63

安美蘭（2005）「日本語・中国語・朝鮮語における感謝表現の対照研究」『日本語教育と異文化理解』第 4 号 , pp.1-9

奥山益朗（1981）『あいさつと言葉』「ことば」シリーズ 14, 文化庁 , p.32

岡本真一郎（1992）「感謝表現の使い分けに関与する要因（2）－「ありがとうタイプ」と「すみませんタイプ」はどのように使い分けられるか―」愛知学院大学文学部紀要 22, pp.35-44

小川治子（1993）「すみません」の社会言語学的考察『言語文化と日本語教育』6, pp.36-46

――――（1995）「感謝と詫びの定式表現―母語話者の使用実態の調査からの分析―」『日本語教育』85 号 ,pp.38-52

小野由美子・許清平・森清隆・森勇樹（2001）「日本語母語話者にみる感謝と謝罪表現の使用－「ありがとう」,「すみません」」再考―『鳴門教育大学実技教育研究』11, pp.75-83

大窪恵実（2001）「日本人若年層における感謝表現と詫び表現について」『葛野』5, pp.30-43

大谷麻美（2003）「日・英における謝罪と感謝―背景心理からの分析」『日本英語コミュニケーション学会紀要』12, pp.140-152

尾鼻靖子（2015）「感謝表現としての「ありがとう」と「すみません」の境界線―シンボリック相互作用理論を適用して―」『言語と文化』18, pp.15-28

熊取谷哲夫（1990）「日本語の「感謝」における表現交替現象とその社会言語学的モデル」『表象研究』52 号 , pp.36-44

――――（1991）「日本語における「感謝」の談話構造と表現配列－「すみません」と「ありがとう」の場合―」広島大学日本語教育科学紀要 1 号 , pp.61-67

――――（1994）「発話行為としての感謝―適切性条件、表現ストラテジー、談話機能―」『日本語学』13, pp.63-72

クリストファー・ロング（2005）「感謝場面での謝罪表現の使用：四つの要因の影響をめぐって」『社会言語科学会第 16 回大会発表論文集』pp.212-215

佐久間勝彦（1983）「感謝と詫び」水谷修編『話しことばの表現』筑摩書房 , pp.54-66

崔信淑（2000）「感謝を表す表現とその心理に関する日中韓対照研究」『大阪大学言語文化学』Vol 9, pp.3-18

住田幾子（1990）「感謝のあいさつことば―「ありがとう」と「すみません」について―」『日本文学研究』26, pp.1-11
スィリラット , サンタヨーパス（2011）「感謝の場面での謝罪の発話：日本語母語話者とタイ語母語話者の意識と使い分け」『一橋大学国際教育センター紀要』2, pp.37-55
谷口龍子（2010）「詫びおよび感謝表現の選択と文・談話構造との関わり―日本語と中国語のヴォイスに注目して―」『東京外国語大学論集』80 号 , pp.179-198
土居健郎（1980）『甘えの構造』弘文堂
中田智子（1989）「発話行為としての陳謝と感謝―日英比較―」『日本語教育』68 号 pp.191-203
中村香代子（2006）「感謝ストラテジーの日独対照研究およびドイツ人日本語学習者のストラテジー選択『言語情報科学』4 号 pp.243-257
西原鈴子（1994）「感謝に関する一考察」『日本語学』7 月号 vol.13, pp.4-9
西村啓子（1981）「感謝と謝罪の言葉における「すみません」の位置」『日本文学ノート』第 16 号 , 宮城学院女子大学日本文学会 , pp.62-79
宮島達夫・他（1982）「あいさつ―5」林大（編）『図説日本語』角川書店 , p.499
山梨正明（1986）『発話行為』大修館
三宅和子（1993a）「感謝の意味で使われる詫び表現の選択メカニズム―Coulmas（1981）の indebtedness「借り」の概念からの社会言語学的展開―」『日本語教育論集』8, pp.19-38
――――（1993b）「視点の観点からみた『感謝』と『詫び―慣用表現とともに使われる表現：日英比較」『東洋大学短期大学紀要』25 号 , pp.203-214
――――（1994a）「「詫び」以外で使われる詫び表現―その多用化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係―」『日本語教育』82 号 , pp.134-146
――――（1994b）「感謝の対照研究　日英対照研究―文化・社会を反映する言語行動―」『日本語学』13, pp.10-18
水谷修・水谷信子（1989）「すみません」『外国人の疑問に答える日本語ノート』 ジャパンタイムズ , pp.115-117
山本とも子（2003）「感謝の謝罪表現「すみません」－「すみません」が感謝と謝罪の両方の意味を持つわけ―」『信州大学留学生センター紀要』4, pp.1-13

A Review of Previous Research on Gratitude Expressions in Japanese

Zhang Qi

The expressions of "thank you" dealt with in this research are used universally in various societies, and reflect the culturale and, social norms and values in which the language is spoken. Among them, Japanese gratitude expressions are rich in variety and extremely complicated compared to other languages. "Each language reflects different cultural values and customs, as many linguistic contrast studies show, and the natural use of target language expression is often difficult even for advanced users" (Nakamura p.243) . For Japanese language learners, it is not easy to use appropriate expressions of gratitude in individual situations. However, despite the fact that it is a difficult item to learn, there are places where teaching is insufficient.

Therefore, there is first an overview with regards to gratitude in the contemporary Japanese language, the behavior characteristics, expressions, variables affecting the use of gratitude, etc., and what has been elucidated is summarized. Thereafter the characteristics of Japanese gratitude are further clarified, by contrasting the expressions of gratitude between Japanese-English, Japanese-Chinese, and Japanese-Korean.